

表 1. 大麻合法化の影響（まとめ） World Drug Report 2022 より

領域	大麻合法化後の変化 (時系列/結果/影響)	大麻合法化が世界のすべて国において 明確な趨勢となったか？ あるいはある地域だけの傾向なのか？	大麻合法化の影響として明確になった 事実は何か？
公衆衛生 ・成人の使用	大麻使用の一般的増加。性差は小さくなり、若年層での増加が顕著。	大麻使用の一般的増加は米国、カナダ、ウルグアイで見られた。2021年、カナダでは年経験率及び月経験率の最初の減少があったが、日経験率には見られず、大麻合法化後には、大麻使用者において大麻が嗜癖薬物である傾向が認められた。	各国や行政管轄区における大麻合法化は、それぞれの異なった大麻使用レベルに対して行われたので、成人の大麻使用への合法化の影響はそれぞれ異なる。米国とカナダでは、大麻合法化に先立ち大麻使用が増えた。そのほとんどで、大麻の医療的使用を認可する法律が制定されたことが嗜好的使用を含めて大麻の入手を容易にした。大麻合法化後の大麻経験率の変化は明確であるが、この指標は大麻合法化の影響の一部でしかない。大麻合法化は、
・青少年の使用	他の国に比べて米国とカナダの青少年年齢集団の大麻使用は高いままであるが、一般的には定常状態か減少傾向にある。しかし、毎日使用（常習使用）と蒸気吸入（vaping）は増加している。	ウルグアイでは、米国やカナダと異なり、青少年の大麻使用が増加している。	それ以前に起こっていた大麻使用のダイナミックな動きを単に促進しただけと思われる。事実、大麻合法化は、大麻市場の拡大や同時に起こった大麻の危険についての認識の低下および常習的大麻使用の増加の原因というよりは結果の一部であると考えられる。しかし、カナダでは大麻合法化後、大麻使用者において大麻の嗜癖的性質が増加した。

領域	大麻合法化後の変化 (時系列/結果/影響)	大麻合法化が世界のすべての国において 明確な趨勢となったか？ あるいはある地域だけの傾向なのか？	大麻合法化の影響として明確になった 事実は何か？
<p>・ 生殖年齢の女性における大麻使用、特に妊娠中の女性の使用</p>	<p>妊娠前、妊娠中及び妊娠後を含む生殖年齢の女性による大麻使用は大麻合法化後増加している。特に既に大麻合法化が行われた国々において妊娠中を含む生殖年齢の女性の大麻使用率が極めて高い（これらの国では合法化以前に生殖年齢の女性の大麻経験率すでに顕著であった）。</p>	<p>大麻合法化前後の、妊娠中を含む生殖年齢の女性の大麻使用の傾向及び使用レベルについての知見は、定期的なモニタリングが行われている米国で得られている。</p>	<p>妊娠中を含む生殖年齢の女性における大麻使用は、大麻合法化がされた国々で顕著に増加している事実がある。大麻合法化自体でその一部を説明できるものであるが、これらの国々では大麻合法化以前からその使用率が高い。</p> <p>大麻使用の増加の大部分は、大麻使用の危険の認識の減少と妊娠中の自己治療（セルフ・メディケーション）によるものと考えられる。</p>
<p>・ 大麻の有害な使用及び健康に対する帰結</p>	<p>大麻合法化後数年間において大麻関連の救急診療所の受診や入院が急増したが、その後は定常状態にある。食品として摂取して救急診療所を受診したケースは大きく増加した。特に、子供のケース</p>	<p>大麻合法化前後の、大麻関連の入院および救急診療所受診についての知見は米国の二つの州、コロラドとカリフォルニアそしてカナダで得られる。</p> <p>大麻による健康障害、鬱、自殺に関する情報は米国とカナダで得られる。</p>	<p>大麻における経験率の増加、強度（使用頻度と使用量）の増加、大麻製品中の THC 含量の増加、そして大麻使用による入院と大麻関連健康障害の増加が、「同時に四重に重なって合流」し、そのすべてが大麻合法化後、相乗的に相互作用した考えられる。このため困難であるが、大麻合法化のそれぞれの要因に対する正味の影響を検証することが必要である。</p>

領域	大麻合法化後の変化 (時系列/結果/影響)	大麻合法化が世界のすべての国において 明確な趨勢となったか？ あるいはある地域だけの傾向なのか？	大麻合法化の影響として明確になった 事実は何か？
	<p>が多い。</p> <p>大麻合法化の数年前から始まっていた大麻使用による健康障害は増加傾向にある。また、大麻常習による精神障害や自殺の割合が増加している。</p>		<p>大麻について、食品に関連する問題が急増していることは、大麻の健康への全体的な害を増加させる、より有害な大麻製品へのアクセスを大麻合法化が直接的に開いてしまった（有害な大麻製品へのアクセスを容易にした）ことを示している。</p> <p>自殺の増加に占める大麻の割合が、アルコールに比べても、極めて急激に増加している。この事実はまた、大麻の全体的な有害性が、大麻合法化以前から始まった大麻使用のパターンによって引き起こされたことを示している。</p> <p>そして、大麻合法化は以前に存在した傾向を加速し、悪化させたものと思われる。</p>
アルコール及び たばこことの置換/ 補完	<p>大麻合法化後、アルコール使用は減少していない。一方、たばこ・喫煙は米国では全国的に大麻合法化に関わらず一貫して減少している。</p>	<p>アルコールやたばこことの置換効果についての情報は米国のみで得られている。</p>	<p>大麻合法化後におけるアルコールやたばこことの置換効果については、結論が得られていない。限られた調査からは大麻合法化は置換効果よりむしろ補完効果もたらしているように思われる。</p>

領域	大麻合法化後の変化 (時系列/結果/影響)	大麻合法化が世界のすべての国において 明確な趨勢となったか？ あるいは地域だけの傾向なのか？	大麻合法化の影響として明確になった 事実は何か？
<p>大麻マーケット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 製品、効力、価格 	<p>大麻製品には、明らかな多様性がみられる。その中には大麻合法化後、大麻マーケットに現れた濃縮物や食品など、高い効力を持つものがある。大麻の平均 THC レベルは合法化後増加しづけており、一方 CBD レベルは低下している。</p>	<p>大麻中の THC の増加と CBD の減少は米国全土で見られる。コロラドでは THC 含量は 79%まで増えている。大麻製品の多様性はカナダでもみられる。また、ウルグアイでは THC 含量や大麻製品の種類は米国カナダに比べて低く、概ね一定である。</p>	<p>大麻の合法化と大麻製品の多様化及び効力の増加との因果関係を見出すことは難しいが、米国やカナダで起こった大麻合法化の道筋がアルコールやたばこと同じように、商業的関心とマーケットの多様化を引き立てたかどうかを考察することは有意義である。</p> <p>食品のような大麻製品はまた、喫煙による方法より大麻使用をより美味しい（とつきやすい）ものにしてている。</p> <p>より規制的アプローチ、特にウルグアイで採用されている THC 含量の規制は、この国で大麻製品が多様化するのを予防している。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 違法マーケットの規模 	<p>大麻の違法マーケットは、大麻合法化後も存在しているが、その規模は大麻を合法化した国や管轄地域により異なっている。ある国では大麻の違法マーケットは新しい規</p>	<p>大麻合法化後も残っていた違法マーケットの記録されている規模はカナダでの 40%からウルグアイの 50%、カリフォルニアの 75%と多様である。ウルグアイでは、登録されている大麻使用者と過去 1 か月の大麻使用者の推定値には不一致がある。このことは合法マーケットが大麻常習者の需要と</p>	<p>ある地域では大麻合法化により違法マーケットが縮小しているが、大麻合法化は、大麻が合法化された管轄地域における大麻の違法マーケットに置き換わるものではなかった。いくつかの異なる理由から、大麻の違法マーケットが依然として魅力的である；価格、質、そして入手しやすさなど。</p>

領域	大麻合法化後の変化 (時系列/結果/影響)	大麻合法化が世界のすべての国において 明確な趨勢となったか？ あるいは地域だけの傾向なのか？	大麻合法化の影響として明確になった 事実は何か？
	制が導入されたことによって縮小している。	の間の実質的なギャップに直面していることを表している。	いくつかの地域では違法マーケットで売られる大麻のパーセントは減少し続けている。しかし、現時点では、大麻合法化のどのようなモデルが大麻違法マーケットの縮小につながるのか、また大麻合法化により違法大麻マーケットを完全に除くことができるのか、を判定することはできない。
・ 税と収益	合法化した大麻マーケットからの税収は増え続けている。この税収の一部は薬物乱用と薬物使用による障害の治療に使われている。	大麻に関連する税収は大麻合法化されたすべての地域で増加している。年間の大麻関連の税収はカナダの 15 億カナダドルからカリフォルニア州の 44 億ドルといろいろである。大麻関連の税収は、しかし、それぞれの国や州の全税収の小さな部分でしかない。	大麻合法化は、大麻マーケットからある量の税を集めるという観点から、また大麻を合法化した地域や国における新しい財源として、明らかなインパクトがある。しかし、大麻関連の税収の全税収に占める割合は小さなものである。
公共の安全 ・ 大麻影響下での運転 ・ 交通事故死亡	大麻影響下での運転と大麻に関連する自動車事故死の増加が米国全土で見られる。 大麻摂取の 2-3 時間後の態度に目立った変化は	米国では、大麻に関連する自動車事故死の増加が全土で見られる。ただ、大麻合法化が行われた州とそうでない州で有意差はない。 大麻摂取後の自動車運転に対する態度に関する知見が米国とカナダで得られている。	運転者における大麻の悪影響とアルコールなど他の薬物による影響を区別することにおける方法論的な問題があるにもかかわらず、大麻関連の交通事故に対する大麻合法化の影響に関する知見は様々で結論は出ていない。しかし、米国コロラド州における交通事故死の

	見られない。 大麻合法化後、薬物でおかしくなった運転および大麻影響下での運転に対する治療的収容が増加し続けている。	大麻でおかしくなった自動車運転の増加がカナダで認められており、大麻によりおかしくなった運転に対する治療的収容の増加が米国コロラド州で認められている。	明らかな増加は、大麻合法化が原因とは考えられなかった。一方、大麻合法化前から始まった薬物の影響を受けた運転の増加に関しては、少なくともその一部は大麻影響下で運転した者の検挙や取締り数の増加によるものである。
・学校における規律	学校における大麻が関連する問題は、大麻合法化後もなくなっていない。 生徒の追放(退学・除籍)、停学、警察・司法への照会などの主な理由が大麻関連である。 学校における規律問題の大麻合法化後の傾向は、複雑で、多様である。大麻合法化直後に一定の、あるいは減少的傾向がみられたが、その後、薬物関連の停学はいくらか増加した。	薬物に関連した学校における規律の傾向については、米国のカリフォルニア州とコロラド州で調査された。	大麻合法化は、学校における生徒の薬物や大麻使用に対する制裁(罰則)に変化をもたらさなかったと思われる。 ただ、限られたものであるが、大麻合法化後、学校による薬物と大麻に関連する処罰が増えたという知見がある。

<p>犯罪取り締り</p> <p>・個人使用のための大麻所持による逮捕・起訴</p>	<p>大麻合法化後、大麻関連犯罪による逮捕者は有意に減少した：成人において急激な減少があった一方、若者ではその減少は小さく、有意でなかった。逮捕者の減少は、すべての人種で認められたが、逮捕者の人種間格差は大麻合法化後広がった</p>	<p>大麻関連の逮捕者の減少は、大麻の非医療使用が合法化された米国のすべての管轄区で認められた。</p> <p>大麻の非犯罪化が導入された米国の州では、若者の逮捕率が有意に減少した。他方、大麻合法化が行われた州では、若者の逮捕は有意に減少しなかった。</p>	<p>大麻合法化が導入された米国の州では、大麻犯罪による逮捕者、特に個人使用のための大麻所持による逮捕者の減少が合法化後顕著になった。これは、大麻所持あるいは密売買に関して犯罪として逮捕された者が減少したことによるもので、大麻合法化の直接的影響と考えられる。しかし、大麻法は未成年に対しては有効で、機能しているので、大麻合法化は若者の逮捕者数には全く影響を与えていない。成人に対する大麻合法化に対応して、警察は若者に焦点を絞って対処している可能性がある。</p>
<p>・暴力および窃盗・強盗</p>	<p>大麻に関連しない犯罪発生率の傾向には、大麻合法化も変化がなかった。大麻販売所をめぐる暴力事件が増加した。これは特に低所得者層で認められた。</p>	<p>米国では大麻合法化は、全体的な犯罪の減少傾向、他方カナダでは全体的な犯罪増加傾向（しかし、その後数年で減少）という状況下で行われた。</p> <p>大麻合法化後、米国では犯罪発生に関して多様な傾向がみられた。すなわち、ある州では犯罪が増加し、またある州では逆に減少した。</p> <p>大麻販売所をめぐる犯罪については米国のワシントン州とコロラド州で調査研究されている。</p>	<p>犯罪率全体についてみると、大麻合法化の影響は見られない。ただ、全体についての指標は、州や地域レベルにおける有意の変化を覆い隠している可能性がある。非常に限られたものであるが、大麻販売所をめぐる犯罪データからは、現金による大麻売買が大麻販売所への強盗や客による略奪のリスクを増しているという知見が得られている。</p> <p>個々の管轄地区内の犯罪率は、大麻合法化そのものよりも、社会人口学的要因や経済状況に大きく影響され、また、それぞれの管轄地区</p>

			の行政・法執行の違いに影響される。
<p>商業的関心</p> <p>・大麻サプライチェーンにおける大企業の関与</p>	<p>大麻合法化後、大企業の影響の増大や投資により、合法的大麻生産企業が増えている。</p>	<p>大麻関連事業に投資を行っている大企業が、特にカナダと米国カリフォルニアで顕著であるという知見がある。</p>	<p>大麻合法化は、成長の可能性と投資の機会という観点から大企業を引きつけ、新規の大麻産業設立に向かわせている。</p>
<p>・たばことアルコール産業の大麻サプライチェーンへの参入</p>	<p>たばこおよびアルコール産業の大麻産業への関心と投資が増えている。また、その逆もみられる(大麻産業のたばこおよびアルコール産業への関心の増加)。</p>		<p>たばこおよびアルコール産業においてかつて起きたように、大麻産業への大企業の関心の拡大は、マーケットを独占するための協調・連携、マーケットを拡大することの擁護、大麻常習者を増やすことを目標とした大麻製品の急激な増加、などの結果を招いている。</p>
<p>まとめ</p> <p>アメリカ大陸諸国のいくつかの管轄地域における大麻合法化の影響についての知見はまだ、まだらで決定的なものではない。長期の確かな変化を評価するには、現在はあまりにも期間が短い。また、大麻合法化以前に存在した大麻マーケットの特殊な性質が新しい規制の正味の影響を評価するのを難しくしている。観察された傾向と教訓の多くは、大麻が合法化された管轄地域がどこであるかという文脈で特殊化されたままである(大麻が合法化された国・地域のそれぞれの事情に影響されることが多い)。そのため、他の国や地域へ適用することは難しく(一般化することは難しい)、同じ規制方法を採用しても公衆衛生、公衆安全、犯罪取締り、大麻マーケットおよびここで分析した商業的関心など分野に異なった不均衡な効果を及ぼすと考えられる。</p>			